

名古屋大学ヤングリーダーズプログラム(YLP)受講生が国立保健医療科学院を訪問

2026年5月27日(水)、名古屋大学ヤングリーダーズプログラム(Young Leaders' Program: YLP)医療行政コースの受講生12名および引率教職員2名が、国立保健医療科学院を訪問しました。

YLPは、文部科学省による国費外国人留学生制度の一つであり、アジア諸国等において将来の国家指導者として活躍が期待される若手行政官等を対象に、日本の大学院で英語による教育を実施するプログラムです。名古屋大学の医療行政コースでは、保健医療行政を担う人材の育成を目的として、2003年から教育プログラムを提供しています。

今回の訪問には、タイ、フィリピン、ラオス、カンボジア、バングラデシュ、インドネシア、マレーシアの7か国からの受講生が参加しました。

科学院訪問日:2026年5月27日(水) 10:00~12:00

国立保健医療科学院の紹介	公衆衛生政策研究部 佐々木 由理
「日本の公衆衛生公的統計:概要と診療報酬での事例」	公衆衛生政策研究部 渡 三佳
「日本のたばこ対策について」	生活環境研究部 稲葉 洋平

当日は、まず国立保健医療科学院の役割や事業内容について紹介を行いました。続いて、「日本の公衆衛生公的統計:概要と診療報酬での事例」と題した講義が行われ、日本の公的統計制度や診療報酬制度におけるデータ活用について説明しました。さらに、「日本のたばこ対策について」の講義が行われ、日本におけるたばこ対策の歴史や現状、研究活動について紹介しました。その後、たばこラボの見学を実施し、研究設備や分析手法について説明を行いました。

受講生は講義や見学を通じて非常に高い関心を示し、多くの質問が寄せられました。特に、日本の保健医療制度や公衆衛生政策、診療報酬制度の運用、たばこ対策の実施状況などについて活発な意見交換が行われました。また、参加者それぞれの国における制度や課題との比較を交えながら議論が進み、相互理解を深める貴重な機会となりました。

今回の訪問を通じて、受講生が日本の公衆衛生分野における実践的な取組や研究活動への理解を深めるとともに、国際的な人的ネットワークの構築にもつながる有意義な交流の場となりました。

